

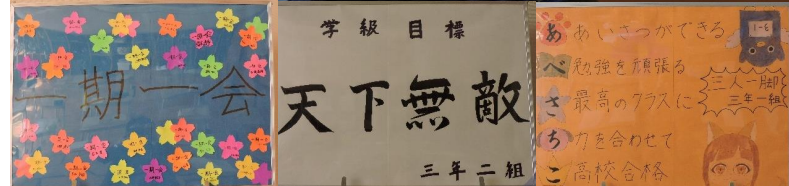
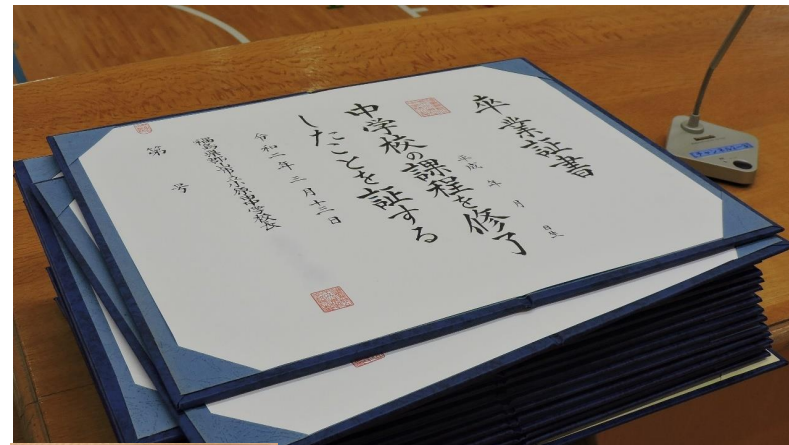
「西田先輩に学ぶ」そのコンセプトは 小原田の魅力の再発見と 持続可能な町 小原田に向けて



先輩とは、まぎれもなく本校
第二期生である西田敏行先輩の
ことです。
昨年十月にご逝去され、今月
十八日には東京・増上寺で、お
別れの会がしめやかに行われま
した。
西田敏行さんは、地元である
小原田はもちろん、郡山市・福
島県を愛し、東日本大震災後
は復興に向け尽力され、その行
動力と愛情溢れるたくさんの言
葉で地元民を元気にしてくれま
した。
その後輩である子どもたちに
は、そのご意思を受け継ぎ、ふ
るさとを残していけるよう、知
恵を出し合い、住民として担い
ていって欲しいと願っています。
そこで、小原田では、三年
間の総合的な学習の柱として、
「西田先輩に学ぶ」を位置づけ、
小原田の地域について学び、体
験し、未来に向けて持続可能な
町小原田をつくるために、必要
なアイデアを見つけて、でき
る事から実践していく学習を計
画しています。
子どもたちが見つけたアイデ
アが、今現在の状況で実現が
難しい場合も多々あるものと思
います。それを実現するために
必要な知識、技術を身につけ
るため、子どもたちは一旦小原
田を離れ、進学したり、他で就
職したりすることもあるかと思
います。それこそ小原田への想
いがある、だからこそ小原田に
向けて発信したり、小原田に戻
ってきたりして、小原田を描い
てます。

この学習は、学校が単独では進
めることはできません。地域の皆
様、保護者の皆様のご理解とご協
力があって初めて為し得るものと
考えます。
その一年目となる令和七年度
は、我々教職員も手探りの状態
です。とある、二年生が学ぶべき
事、二年生が学ぶべき事、三年生
が学ぶべき事を行っていきま
す。順序立てて学習が成立する
は、七年度の一学年が三年生に
なるとき、つまり最低でも三年
はかかることとなります。
ただ、ここで子どもたちの心
火をつけなければ、手遅れにな
るかも知れません。少子高齢化・人口
減少・人口流出は、郡山市でも既
に始まっています。
中学校卒業の時点で、明確に
来、自分たちの受け皿となるよう
な仕事や活動を見つけたら、
それが子どもたちの夢となり目
標となるものと考えます。
これからどんな小原田になっ
ていくのか、若い世代のアイディア
に期待が膨らみます。未来を任せ
る、皆様と共に取り組んでいき
たいと考えます。

中学校を卒業すること



卒業の時期を間近に控え、学校
は卒業式の練習が始まりました。
今年の三年生が小学校の卒業を
迎えたときは、コロナ禍が収束に向
かっていたので、まだご来賓をお
迎えする卒業式には至ってなかつ
かと思いましたが、三年が経過し、
今は、人数は減りましたが、ご来賓をお
迎えする卒業式ができる状況とな
り、いよいよ通常の卒業式が行
えます。
さて、「中学校を卒業する」とい
うことは、同時に義務教育を
修了するということであり、社会
に出るための必要最低限の知識、
技術、礼儀、体力、道徳心等を身
につけたということの意味です。
卒業式は、正確に言うところ、
授与式となります。そして、中
全課程を修了した者には、校長
業証書を授与しなければならな
いことと、法で定められており、
それをいう機会となります。
郡山市のような、都市部に住ん
でいると、中学卒業後の家庭生
活に大きな変化はなく、卒業自
体も一つの通過点に過ぎないとい
う意識があるように感じます。
山村の学校に赴任して、卒業
の意味を考へる機会がありました。
その学校では卒業式の中で、卒
業生一人一人が保護者への感謝
の言葉を述べ、花束を渡し、涙
ながらにハグする

と、いうことを、つい最近まで
行っていました。その儀式を、今
の時代には教職員から出たので、
検討したうえで、中学校の卒業
式で、なせそのように演出が
生まれたのか、背景を調べてみ
てみました。その町には、高
校がなく、進学または就職する
に際しては、今でも四（電
車）で、そこに行くには、一
十分程かかり、中学を卒業し
たら親元を離れ、下宿して高
校に通うのが当たり前の状況
だったと推測され、十五歳
の子どもの手を放さねばなら
ない親と、否応なく立ち立
ちなれた演出だったのでは
ないかと考え、納得がいくよ
うな気がします。
当時の学校では、立派に成
長した姿を見せることによ
って、親を安心させ、子ども
も覚悟をもたせるために、
練習をさせて、式に臨ませ
たとも考えられます。大
きな都市に住み、便利交通
手段もあり、進学してもほと
んど親元から通える環境に
いることと、これは、思い
も寄らないことと考
えます。しかし、状況は違
えども、親が子どもの成長
の姿を見る機会であるこ
とに変わりはないと考
え、卒業式の主役は卒業
生だけでなく保護者の皆
様も、ということにな
ろうかと思えます。
中学校を卒業するとい
うことは、単に三年間の課程
を修了したという他に、
ひとり立ちできる年齢とい
う節目での、様々な想い
も含まれるように思いま
す。だからこそ、感動を
超えた涙で会場が埋め
尽くされるのではないで
しょうか。
卒業生の前途を祝し、
教職員、在校生一同、
できる限りの方法で、
送り出
たいと思っております。

〔教育目標〕
健 自 貴
康 主 任

小原田中だより

令和 7 年 2 月号
郡山市立小原田中学校
校長 関根宏房

ホームページ URL
[https://koriyama.scho
olweb.ne.jp/0720007](https://koriyama.scho
olweb.ne.jp/0720007)

